

審議内容整理表

資料2

審議部会 第1回 第2回

事業番号	1	事業名	川内沢ダム建設事業
		委員の質問・意見等	県の回答
治水 便益 関係	①	5年に一度の頻度で洪水被害が実際に発生しているのか。 (平野委員) 〔調書6頁〕	過去35年間の水害統計によると、12回の洪水被害が発生している。昨年の関東・東北豪雨のほか、直近5か年で3回、上流域で氾濫している。
	②	5年に一度の頻度の洪水被害で、実際に35億円もの被害が発生しているのか。 (平野委員・風間副部長・河野委員・橋本部長・千葉委員) 〔調書6頁〕	国のマニュアルに基づき、最も被害が大きくなる地点で氾濫すると仮定して、便益計算している。
	③	過去の洪水被害の有無と降水量の関係が分かる資料を提出していただきたい。 (平野委員・橋本部長) 〔調書6頁〕	第2回部会に提出させていただきたい。 →資料3
利水 便益 関係	①	農業の利水需要の見通しはどうなっているのか伺いたい。 (奥村委員) 〔調書4頁〕	川内沢川から取水している農地の範囲は現況調査に基づくものであり、今後の需要見通しまでの把握は困難である。
	②	平成28年評価時の利水便益について、ダムが未完成であるのに全体の71.6億円に対し残事業が60.7億円と減額する理由を伺いたい。 また、平成24年評価時の残事業の55億円が平成28年評価時に60.7億円へと増額する理由を伺いたい。 (河野委員) 〔調書5頁〕	国のマニュアルにより、利水便益は身替りダムの建設費として算出し、各年の建設費で按分して計上した結果、残事業で減額となったものである。 建設費を便益に置き換える手法であるため、平成24年評価時から建設費が増額したことによって利水便益も増額するものである。
	③	当部会の委員から「利水便益の算定方法に係る治水経済調査マニュアル(案)が間違っている。」と指摘を受けている旨を国へ説明し、この計算方法で良いか、代替的な計算をしている事例がないか確認した方が良い。 (河野委員・平野委員) 〔調書5頁〕	御指摘内容を国へ報告させていただきたい。 →平成28年11月15日に国土交通省水管理・国土保全局治水課へ左記意見について報告済 今後、当部会の議事録(写)を同課へ提出する予定
	④	治水経済調査マニュアル(案)に基づいて費用便益計算をしないと、国から補助金がもらえなくなることはあるのか。 (千葉委員)	マニュアルの手法に基づいて全国一律で行っているため、宮城県だけ別な手法で行うのは困難である。
付替 道路 関係	①	付替道路の規格が、道路法上の第3種第4級というのは機能補償として過剰と思われる。林道規格で造ればもっとコストが抑えられるのではないか。 (奥村委員・平野委員) 〔調書2・3頁、参考資料〕	ダム事業としての必要最低限の機能補償としては第3種第5級で計画していたが、名取市との協議により第3種第4級で整備することにした経緯があり、そのための追加費用は名取市が負担することになっている。
	②	当初第3種5級規格で設計した整備費用等が分かる資料を提出していただきたい。 (平野委員) 〔調書2・3頁、参考資料〕	第2回部会に提出させていただきたい。 →資料3
調書 の 修正 等	①	「想定される事業効果」に挙げられている川内沢川の洪水調節として、下流域における効果が記載されているが、当該事業の効果として妥当か。 (橋本部長) 〔調書4頁〕	御指摘に従い、記載を修正させていただきたい。 →資料3
	②	「24年度答申に対する対応状況」の最後に挙げられている「今後も震災による地盤沈下～」については、下流域についての記載であり、当該事業の対応として言及することは妥当か。 (橋本部長) 〔調書9頁〕	御指摘に従い、記載を修正させていただきたい。 →資料3
	③	調書14、15頁の洪水状況の写真について、上流域の状況写真を掲載してほしい。 (平野委員) 〔調書14・15頁〕	確認の上、修正等させていただきたい。 →資料3

※

※

※

※

事業番号	1	事業名	川内沢ダム建設事業
委員の質問・意見等		県の回答	
5 その他	①	魚類調査の範囲を伺いたい。また、かんがい期や冬期の水の供給についても魚類の環境を考慮しているのか伺いたい。 (京谷委員) 〔調書4頁〕	ダムサイトから下流までの全区間で魚類調査を行っている。また、かんがい期や冬期間の水の供給についても考慮している。
	②	測量及び試験費が、前回再評価時から2倍以上に増額となっているが、今後さらに上がることはないか。 (河野委員) 〔調書2頁〕	現時点では、ボーリング等のデータも相当程度取りまとまっているので、これ以上極端に上がることはないと考えている。
	③	事業継続妥当という結論が過去に出ており、過去に甚大な被害があったのにも関わらず、これまで事業が滞っている理由を伺いたい。 (福田委員) 〔調書3・7・8頁〕	平成6年に甚大な被害のあった下流域の仙台空港周辺は重要な場所であるため、下流域の被害を軽減する放水路の整備を先行して実施してきた。放水路が昨年完成したため、上流域・中流域を守るダム建設を本格化するものである。
	④	これまで支出した事業費14億円の内訳を伺いたい。 (福田委員) 〔調書3頁〕	ほぼ全てが測量及び試験費であり、環境調査、地質調査及び補償調査などの費用である。
	⑤	過去に実施した再評価において、当部会で「事業継続妥当」としてきた中で、現段階になって費用対効果の内容だけで「事業継続は妥当ではない」とするのは困難ではないか。 (福田委員) 〔調書7～9頁〕	-
審議結果	事業継続とした県案について		附帯意見等
	事業継続の妥当性についてはペンディングとし、次回の部会において審議の上決定する。 (橋本部部长)		/

※: 第2回部会に向けて対応することとなった事項